

# 即行動!! 現場主義

神奈川県議会議員

# 芥川かおる



— 県政レポート — 令和2年1月 第21号

## 新たな時代・令和 新年の幕開け

県民の皆様とともに令和、初めての新年を迎えられたことを心から慶び合いさせていただきます。

天皇陛下に於かれましては、令和元年5月1日に、第126代の天皇の御位におつきになり、皇位の継承に際し、「即位御朝見の儀」において、常に国民と寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国民及び日本国民総合の象徴としての責務を果たすことをお誓いになりました。

私も県民の代弁者として、陛下の大御心を心に留め、常に県民目線を忘れることなく県民に寄り添いながら、自らの責務を果たしてまいることをお誓い申し上げます。

さて、昨年はラグビーワールドカップでの日本選手団の活躍で日本国民に感動を、また、被災地の方々に勇気を与えたことであります。また、今大会を総括するワールドラグビーの会長から「最も偉大な大会だった」と最大級の賛辞がありました。本年はいよいよオリンピック・パラリンピックが開催され、今年も日本中がビッグスポーツの祭典で大いに沸きあがることになるでしょう。



### 新年のごあいさつ

芥川かおる後援会 会長 石川 正治



皆様におかれましては、穏やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、統一地方選挙におきまして、会員の皆様から絶大なご支援、ご協力を賜り、神奈川県議会議員として第二期目となる県政へお送り頂き誠にありがとうございました。

本年も皆様方の更なるご支援、ご厚情を賜りますことをお願い申し上げますと共に、皆々様、ご家族ご一同様のご健康とご多幸を心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

### 新年のごあいさつ

芥川かおる後援会 女性部 さくらの会 部長 矢野 和子



新年あけましておめでとうございます。令和二年を迎えられたこと、心からお慶び申し上げます。

神奈川県議会議員として二期目となり、女性部さくらの会としましてもより一層支え、盛り上げて参ります。本年も、更なるご支援、ご指導をお願い申し上げます。

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



芥川かおる後援会

## 新春の集い

日時 令和2年 2月16日 14時～  
場所 鈴鹿明神社 参集殿 住所: 座間市入谷1-3500  
会費 2,000円  
問合せ 芥川かおる事務所 TEL 046-244-0281





## 台風19号における城山ダムの緊急放流について

城山ダムでは、10月11日の14時から事前に「予備放流」を開始し、ダムの水位を下げ、最大限の備えをしていました。城山ダムで行った「予備放流」は治水と利水で融通できる全容量を予め放流して予備放流水位まで下げ、ダム計画に必要となる治水容量を確保するものとされました。

報道等で取り上げられている宮ヶ瀬ダムの「事前放流」は、利水容量を一時的に放流して、予備放流水位よりも更に下げ、計画以上の治水容量を確保するものとなりました。

城山ダムでは、「事前放流」を行って、予備放流水位よりも更に水位を下げると、放流ゲートの高さなどとダムの構造から、水圧が掛からず放流量が小さくなってしまいうため、有効な洪水調節を行うことが困難であるとされました。

そのことから今後、城山ダムの洪水調節機能については、利水容量の活用や、操作方法の見直しを検討することが重要になってまいります。



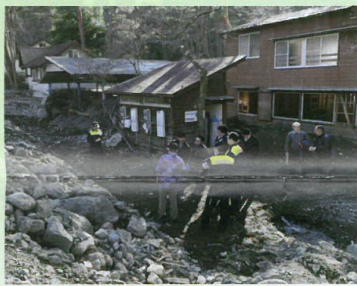
### ―― 自民党代表質問での知事答弁

ダムの洪水調節機能を強化するには、ダムの利水容量の一部を事前に放流して、より多くの洪水調節量を確保するなどの方法が考えられる。

しかし、城山ダムにおきましては、事前放流を行うには、水道事業者など利水者との調整はもとより、新たな低い位置に放流口ということなどのような、大規模なダムの改良が必要となる。

今後、国や専門家の意見を聴きながら、こうしたことが現実的であるかどうかを検討をしていきたいと考える。

また、洪水調節時の段階でも下流の堤防に影響を与えない範囲で、より多く放流し、ダムの水位上位の速度を抑えられないかなど、様々な観点から城山ダムの洪水調節の強化について検討をしていく。



## 相模原市緑区へ視察

台風19号で被災された相模原市緑区に12月14日に現地視察に行っていました。発災から3ヶ月が経過をしましたが、復旧はまだ進んでいない状況でした。

「藤野北小学校」では豪雨を受けた鉄砲水による地滑りで、3,000㎡もの土砂と樹木が校庭まで崩れて危険な状況を確認しました。現在、27名の在校生は近くに宿泊施設に移って授業を受けております。自民党の県議、国会議員の働きかけにより復旧事業を実施することが決定され来年夏までに除去作業に取り掛かります。

牧野現場では土砂崩れにより幅100メートルにわたって崩落し、自宅が流されたご夫婦が行方不明となりました。消防や警察、陸上自衛隊による懸命な捜索活動が続けられ、被災から1ヶ月経った11月10日に奥様、12日にご主人が遺体で発見されました。現在、県主導で復旧が進められています。

また、青根の「このまざわキャンプ場」では、キャンプ場横の河川、此の間際に、道志川のバックウォータ一現象で大量の土石流が滞留して大きな被害となりました。県の査定調査は年明けになっており、早急な対応が求められています。県に対し、緑区をはじめ県内被災地への復旧・復興にあたってはスピード感を持って取り掛かるよう働きかけてまいります。

今後、このような水害はどこで発生してもおかしくありません、東日本大震災以降、各自自治体では地震対策への見直しはされてきているものの、今回の被害を教訓とし水害対策への見直しも急務であります。

## SDGs (持続可能な社会) の取り組み



県では持続可能な神奈川の実現に向け、最先進県として取り組んでいますが、本年度の県民ニーズ調査の結果速報が、10月23日に発表され、SDGsの認知度について「知っている」と回答した方は全体の18.5%でありました。県として、この結果を重く受け止めるべきであります。今後、認知度を上げていくことや持続可能な社会実現に向けては、県民の身近な存在である市町村の取り組みが重要であり、その後押をしていくことが県の重大な役割であります。

また、持続可能な社会の担い手を育む教育として、2020年4月から小学生、2021年4月から中学校へ新学習指導要綱の全面実施が決まりました。そのような中、座間市で平成26年4月より市内小学校、幼稚園、保育園へごみ収集業務の職員の方が自ら訪れ、ごみの分別などについて学ぶ「わくわくあそび」の出張講座を実施しています。このような企画こそが子どもたちが今後の環境問題へ考える良い機会となり、持続可能な社会への担い手の一歩になります。



座間市より提供

みなさんの「声」を聞かせてください!

